



カンボジアの子どもたちに教育の機会を 2005年1月 No.12

アジア未来学校便り

小学校で一番になりました！

カンボジア事務所所長 安田理裕

～目次～

アジア未来学校便り	1
特集	
わたしが日韓アジア基金に 参加している理由	4
韓国の暮らしあれこれ	7
スタッフ紹介	
フリーマーケット報告	8
事務連絡	

新年、明けましておめでとうございます。

私にとってカンボジアでの3度目の正月を迎えることができました。2月の中国の正月や4月のクメール正月と比べると、これといったお祝い事もなく寂しいカンボジアの元旦ですが、日本人の私にとっては、やはり1つの区切りとしてまた新たな気持ちにさせられます。

ルセイサン小学校編入児童インタビュー

先にお伝えした公立小学校始業日から3ヶ月を迎え、アジア未来学校から隣村のルセイサン小学校へ編入した子どもたちの後追い調査が今月初めから行われています。これは総勢50名の編入児童の家庭を回りインタビューを行い、編入後の様子や子どもたちが直面している問題などを調査し、特に問題がある場合はサポートを行っていくというものです。出席率の低さや退学率の高さが問題とされるカンボジアの小学校では、こうした作業は、子どもたちが継続して勉強をしていくという上で、大切なものではないかと思えます。総論的な結果は後日ご報告させていただくこととなりますが、その中で印象に残った話を1つご紹介させていただこうと思えます。

現在13歳のアン・チェンダーちゃんは開校時の2003年4月から2004年9月まで約1年半未来学校に通い、10月にルセイサン小学校に編入しました。以前には、コンポンチャム州で1年間だけ小学校に通ったことがあるそうです。編入学年は第3学年で、これは編入時の試験の結果決められたものです。ルセイサン小学校に移って困ったことは登下校に30分歩かなければならないことくらいで、学校生活そのものは親切な先生と沢山の友だちに囲まれてとても楽しいと言っています。勉強はどの教科も好きだそうです。教科書にきれいな絵が沢山載っているクメール語(国語)が特に好きだそうです。未来学校での勉強したことがあるとは言え、1学年の飛び級編入でしたので、勉強についていけないかどうか私たち職員は心配していたのですが、ついていけないどころか、



13歳のアン・チェンダーちゃん

12月の試験では40名の同級生の中で1番になったということでした！（ちなみに2番、3番も未来学校出身の子どもだったということで、またまた驚きです。）お母さんの手伝いや未来学校に通う妹や弟の面倒など毎日忙しいそうですが、できるだけ長く勉強を続けて、将来は先生になれるように頑張りたいとのことでした。



アン・チェンダーちゃんの兄弟、姉妹



子供たちにインタビュー（1）



子供たちにインタビュー（2） 後方に立っているのはリテイさん

ルセイサン小学校窓・ドア補修作業

ルセイサン小学校から要請があり、「水と大地と緑の会」様の助成により進められてきた同校の窓とドアの補修作業が昨年12月に終了しました。ルセイサン小学校には校舎が2棟ありますが、その内の1棟の窓とドアは朽ちてしまったり、虫の被害によって損傷しているという状況で、教室内に教材を置けない、雨のときに児童が窓から離れなければならないという問題が出ていました。本事業では、古くなった木製の窓枠、ドア枠を撤去し、新たに鉄



教室のドア

製の枠と新しい窓とドアの取り付けが行われました。現在は乾季のため当面雨の心配はありませんが、時を同じくして搬入された新しい机と椅子の盗難の心配はなくなったと学校職員も大いに喜んでいました。工事の終了に当たり、学校をその前身である寺子屋時代から見守り続けてきたグオン先生は、これを機会に子どもたちにモノを大切にする気持ちを一層しっかりと教えていきたいと語っていました。



校舎の外から見た窓



窓の詳細

現地でローカルNGOを設立

カンボジアにおいてNGO活動を行う場合、政府機関に登録する必要がありますが、来年度から日本人駐在員である安田が現地を離れることを機に、日韓アジア基金もカンボジア人スタッフを中心としたローカルNGO法人登録を行うこととなりました。多くのNGOがそうであるように、外国人駐在員を中心とした国際NGO登録という

選択肢もありましたが、経費節減とプロジェクトの現地化が望ましいという観点から、この形を取るのが一番よいという結論に至った次第です。法人登録後は、アジア未来学校

の運営は日韓アジア基金が基本計画の作成、モニタリング（観察・助言）、資金調達を受け持ち、ローカルNGOが事業を実施するという両者の協力の下に行われ、ローカルNGOでは、これまで安田のアシスタントを務めてまいりましたポット・リティが中心となり活動を行ってまいります。日本、韓国、カンボジア、それぞれの市民が主体性を保ちながらも、教育という共通の目標に向かって活動する。これが理想の国際市民協力の形であるとすれば、今回の現地法人化もそうした理想への一歩となるのではないかと期待しています。遅くとも今年度中には申請手続きを終わらせられるように、現在関係省庁との手続き準備を進めておりますが、登録完了後に改めてご報告させていただきます。



勉強している子供たち

特集

わたしが日韓アジア基金に参加している理由

この活動を通して、日中の壁を乗り越える道を探りたい

李天舒（リ ティアンシュ） 東京大学学生

こんにちは。李天舒（Li Tianshu）と申します。東京大学教養学部文科二類一年の中国人留学生です。出身地は中国遼寧省瀋陽市です。

私は日韓アジア基金に入ったきっかけが何かを話す前に、まず私が日本へ留学しに来た理由を説明したいと思います。私は中学校から日本語を第二外国語として学び、日本語への興味は勿論ありましたが、最大の理由は日本という国に対する深く、幅広い興味です。周知のとおり、日本と韓国との歴史問題は日本と中国の間にも同様に存在します。しかも、この問題をめぐる、相互の誤解は日韓以上に深く、論争は日韓以上に激しいといえるでしょう。しかし「一つの立場だけでは、いつまで経っても全ての実情を理解することはできない。」と思い、日本へ留学する道を選びました。日本という国で生活したり、勉強したりすることで、日本人が一体どのように自分自身のこと、世界のこと、中国のことを考えているのかについて、この目で確かめたいのです。

日韓アジア基金のことを知ったのは約一年前、私がまだアジア学生文化協会（ABK）の日本語コースで勉強していたころでした。私の高校の三年先輩にあたる王嶺君の紹介で、日韓アジア基金が主催した「アジアの友達を作ろう」というイベントに参加してみました。その場で、大澤さん・田村さん・樋口さんなどスタッフの方々と知り合いました。本基金の活動のすばらしさに胸打たれ、できる限りの協力をしたいと感じるようになりました。そして、「日本と韓国間でのこうした活動を経験して、歴史の壁を越えるという発想、感覚を得ることは日中関係の改善にも参考になるのではないか」と考え、日韓アジア基金のジュニアスタッフになりました。さらに、日本の中国人留学生として日韓アジア基金に参加する意義は何であろうかと考えて、以下の二つを挙げたいと思います。

- 1、日本と韓国の民間団体の活躍により、調和した東アジアという友好的雰囲気を作り出すことは、中国にとっても有益である。
- 2、アジアの一員として、中国もカンボジアに対して国際的義務を持っている。

このことから、日韓アジア基金の活動は、国際環境での協力、が原点となっているのではないかと考えています。今まで日韓アジア基金の活動に参加してきて、特に深く感心したのはこの団体の「一人一人を大切にする」という性格です。初めてイベントに参加し、自分がもしILAF（日韓アジア基金）に参加したら何ができるかと田村さんに尋ねると、彼は「何ができるかは問題ではなく、何がやりたいかこそ大切ですよ」と答えました。一人一人のやる気を大切にすることこそ、日韓アジア基金というボランティア団体の方針だということが分かりました。それから、日韓アジア基金の事業から見ても、カンボジアの一人一人の子供を大切にするというボランティアの精神が見られます。この精神をもって、これからも同じ理想を共有するスタッフ達と一緒に活動し続けたいと思います。

私の日本、私の日韓アジア基金

朴昌鎬（パク チャンホ）韓国・三星生命勤務

私は2004年3月、会社の研修のため、日本に来ました。基金には私の日本語の個人教師であった千葉さんに紹介して頂き、参加させて頂くことになりました。日本にきたばかりの時からボランティア活動を通じて多様な分野の人とつきあいたいと思っていました。私は昔から韓国と日本が力をあわせれば物凄いパワーが出るだろうと考えていました。しかし、不幸な過去の歴史の壁を乗り越えられず、お互いにとんでもないことに力を費やしてしまっているのではないかと思っていました。このような私の考えを千葉さんと話し合っていたところ、千葉さんが日韓アジア基金について話してくれました。基金活動を通じて日韓関係の全ての問題が解決されるわけではないのですが、日韓関係を大事にしたいと思う一人の韓国人として、今までとは一桁違った日韓の接近方法だと思いました。それが私の基金のメンバーになったきっかけであります。あまり活発な活動はできませんでしたが、基金活動の中、うらやましいと思ったことがたくさんありました。例えば、世代を超えた協同のことですが、大学生から会社を引退した年輩の方まで世代は違いますが一体感を持って一緒に協力して行く姿はうらやましくてたまらなかったです。韓国人は儒教の影響で年輩者を尊敬する意識が強いと日本人によく言われることがあります。しかし、年輩の世代に対して親近感が感じられず、年輩者と若者との世代の壁もその分高いのではないかと思います。さまざまな分野で活躍した経験を生かしたシニア、活力のあるジュニアの融合は韓国では珍しい本当に素晴らしいことでありました。それが今の日本をつくりあげた原動力でもあると思います。今はカンボジアの子どもを助けていますが、日韓アジア基金のキーワードは日韓協力とアジアへの貢献です。そういうわけで私は正直、カンボジアのことより基金の活動そのものがよかったです。

9ヶ月間の日本での一人暮らしの中、知らずに入って困った混浴、大雪のせいで足止めされた旭川空港での騒ぎなど、さまざまな経験をしました。ですが、日韓アジア基金のメンバーの一員として活動できたのは、一番幸いな経験でした。日本にくる前、日本という国は私にとって憎むべき国でした。周りの人から聞いた話で漠然とした恨みを持っていたのは事実です。今は憎んだり、恨んだりする感情は少しもありません。でも最近、日本の政治家、歴史家は何か右の方ばかり向いているような気がしてまだ日本が好きだとは言えません。しかし、日本人はそうじゃありません。自分の意見や感情をはっきり言ってくれない曖昧な振る舞いも他人を傷つけたくない思いやり、気配り、繊細な人間性のためであることが分かってからは日本人が大好きになりました。長所があれば短所もあるわけです。細かくて繊細な性格は普通の韓国人が持ってない性格ですが、ダイナミックでアクティブな性格は韓国人の特徴であります。日本はまだ嫌いだ。しかし、日本人は大好きだ。韓国人が持ってないものを日本人は持ち、日本人が持ってないものを韓国人は持っているのになぜ両国はもっと親しくなれないのでしょうか？答えは分かりませんが、日韓アジア基金の活動はその答えの一つになるだろうと思います。この疑問と解答探しの努力が私の日本生活の結論でした。基金の皆様に言葉で言えない感謝の気持ちをお伝え致します。

一步踏み出すこと

菊池礼乃(きくち あやの) 早稲田大学 法学部3年

昨年1人の留学生に指摘された言葉が、今でも私自身を見返すヒントになっています。

「日本の若者は元気がないよね。」

最近、「NEET:Not in Employment, Education or Training」という、「職に就いておらず、学校機関に所属もしておらず、そして就労に向けた具体的な動きをしていない」若者を指す言葉がマスメディアを中心に話題となっています。日本では、このような若者が年々増加しているようですが、私に指摘してくれた留学生もこの状況を危惧したのかもしれませんが。彼は「日本は物も豊かにあるし、働かなくたって食うに困らない生活ができる。だから、物事に対するハングリー精神が欠けてくるのではないか。」と分析していました。

私の周りの若い人を観察してみると、もちろん自分の夢を叶えようと一生懸命に努力する人もたくさんいますし、私も行動力に優れた友人をたくさん知っています。しかしながら、一方で自分が何をしたいのかよく分からないという人を多く見かけるのも事実です。

それでは、私自身はどうなのかというと、後者のような側面も多分に持ち合わせていたと思います。私は、高校生のときから漠然と国際協力の活動に携わりたいと考えていました。大学生になって授業やサークルでたとえば国際問題、社会問題について議論する機会は多かったのですが、実際に現場で活動することはほとんどなく、大学1年が終わる頃、本当に現場を見ないで、ただ机の上の資料を参考に議論するだけでいいのかと悩むことが多くなりました。その頃は気持ちも悶々として、多くのことに中途半端だったと思います。その半年後、私は大学主催のNGOイベントで日韓アジア基金と出会いました。

「識字教育支援」、母の祖国である「韓国」という言葉に引かれたのも事実なのですが、やはり実際にカンボジアで学校が作られ、その子どもたちのためになすべきことを考える、いわゆる「現場」での活動に携わりたい、そして自分自身を変えたいと思い、一步踏み出すことにしたのです。それからの日韓アジア基金の活動では、本当に学ぶことがたくさんあったと思います。1つのプロジェクトのために皆の意見をまとめるミーティングやその執行機関としての現地スタッフの活動、きちんと帳簿付けされる会計など、大学だけの学生生活では知ることができないことを目の当たりにして勉強する毎日です。

私の経験を踏まえて思うことは、「日本の若者は元気がない」と言われていますが、おそらく経験・体験することが少ないからだだと思います。私もこの団体に入って初めて知ることがたくさんあり、そこからもっと知りたいと思う気持ちが出てきました。これは、他のことに対しても言えることで、アンロンコン村の子どもたちも、文字や数字を学んで初めてその楽しさや世界の広がりを感じるのだと思います。私は、まだまだ経験が浅いので、今後もっと自分を広げる活動をしていきたいです。そして、どんなことにも「一步踏み出すこと」を恐れずに、たくさんの壁にぶつかっていきたいと思います。

スタッフとして活動している3人に、参加したきっかけや活動しながら考えていることを書いてもらいました。会員みなさまは、どんな思いで応援して下さっているのでしょうか？次号で特集したいと思いますので、ご投稿をお待ちしています。ご意見を書いてくださる方は、2月末までに、8ページの宛先に、郵便または電子メールでお送りください。

韓国の暮らしあれこれ

鍋物を食べる時、韓国ではひとつの鍋に直接めいめいの匙を入れて食べますが、日本ではめいめいの器にとって食べます。これについて10号で朴さんが「日本人は韓国式を非衛生的と感じるが、韓国人は日本式を情がないと感じる。」と語っています。

この食べ方の違いははたしてどこから生まれたのか考えてみると、鍵は匙にありました。韓国の食卓には必ず箸と匙があり、スープだけでなくご飯も匙で食べることが多いのです。ご飯を匙にとり、匙ごとスープの中に入れてご飯とスープと一緒に食べたりもします。一方和食では茶碗蒸しは別としてふつう匙は使われません。韓国とは逆に戦国時代には湯漬け、いまは茶漬けで、ご飯にかけてサラサラと箸で食べます。日本も韓国も同じように、おそらく中国から伝わった箸を使っているのに、中国や韓国では使われる匙が、なぜ日本にはないのか？平安時代の食事の図を見ても、やはり匙はありません。そもそもスープがないようなのですが。

ある友人は米のせいではないかと言います。中国や韓国の昔の米はパラパラしてまとまらず、箸ではつまみにくかったので、匙ですくって食べました。日本では早くから粘着力のある米があって、にぎりめしも作れました。匙で食べる韓国では茶碗は持ちませんから、真鍮の器を使い、日本では箸で食べ、ご飯茶碗は手で持つため、真鍮では熱くて持てません。だから陶磁器を使います。こう考えてくると、食事のしかたの違いは、米の違いから生まれ、匙を使う方はひとつの鍋につっこめますが、箸を使う方は、めいめいの器にとらなければ食べにくいという、非常に物理的な理由から、生まれたのではないかと思われまます。(波多野)

スタッフ紹介

中谷 雄

皆さん、こんにちは。茨城県の水戸市にある常磐大学国際学部1年の中谷雄(なかやゆう)です。私が国際協力の道に進もうと思ったのは去年の事でした。遅いと思われるかもしれませんが、去年高校を中退し、先のことは何も考えられませんでした。しかし、偶然テレビで、カンボジアは学校が不足し、通いたくても通えない子供がいるという現状を知りました。その番組の中で子供が下を向いて「学校に行きたい」と言ったのがすごく印象的で、自分より小さな子供がその時の自分と同じ気持ちでいるというのにショックを受け、そこから、自分が何かしてあげたいという気持ちが芽生えました。それで大検を受け、今の大学に入学しました。



これからは、途上国のいろいろな問題に関心を持ち、視野を広げていきたいと思っています。それと同時に、日韓アジア基金のスタッフとしていろいろなイベントに参加し、カンボジアの子供達のため、頑張っていきたいと思います。

フリーマーケット報告

「未来学校のために何ができるだろう？」主に学生で構成されているジュニアスタッフが、未来学校の資金対策として考えたのが、フリーマーケット参加でした。家の中では無用の長物として眠っているだけの品々も、それを必要としている人がいるはずです。リサイクルにもなり、収益活動にもなるということで、昨年は春に一回、秋に2回、明治公園でのフリーマーケットに参加しました。フリーマーケットによる収益は全て、未来学校の子どもたちへとつながっていくことを思うと、私たちスタッフの気合いも自然と入ります。未来学校の子どもたちのポスターを貼り、値切り上手なお客さんたちに負けじと売ってきました。

【収益】 5月 47,000円 10月 54,750円 11月 52,935円
(合計 154,685円)

フリーマーケット参加にあたり、商品のご協力をしてくださった会員の方々にお礼を申し上げます。秋のフリーマーケット参加前に、ニュースレターにてご協力をお願いしたところ、驚くほどの商品が集まり、他店より豊富な品揃えで出店でき、ほぼ売り切ることができました。

* 商品ご提供のお願い

2005年も2回(5月・10月)フリーマーケットに参加する予定です。

未使用品: タオル・シーツ・食器類 使用済みも可: かばん

ご送付の時期、宛先は次号(13号)のニュースレターでお知らせいたします。
ご協力お願いいたします。(千葉)

04年10月～12月に会費・ご寄付を下された方(敬称略・五十音順)

井戸端 裕子	神戸 博子	瀬野 めぐみ	田村 洋平	中田 美智子	広瀬 微孝	松田 明美
井上 和代	菊池 礼乃	高木 三広	崔 貞美	中谷 雄	藤井 陽子	松田 啓志
今西 淳子	鯉沼 利夫	高柳 直正	千葉 眞衣子	生井 茂樹	古川 和子	谷池 教子
大澤 龍	越塚 忠巳	健石 睦子	津布久 元子	朴 昌鎬	古川 起與子	好本 照子
王 嶺	鋤柄 慎吾	田中 則子	中田 邦雄	橋本 寿夫	松井 ふみ子	四方田 千尋

フリーマーケットの商品をご提供下された方(敬称略・五十音順)

井戸端 裕子	関口 まり子	前田 了子	松井 ふみ子	松田 明美	山越 栄子	渡部 澄江
--------	--------	-------	--------	-------	-------	-------

ご入会・ご寄付のお願い

学生会員 : 年会費1口2,000円 何口でも
 一般会員 : 年会費1口5,000円 何口でも
 法人会員 : 年会費一口10万円 何口でも
 ご寄付 : 2,000円以上おいくらでも

< 郵便局振替口座番号 >
 振込口座 00180-2-25153
 日韓アジア基金

ご支援下された方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。

< お問合せ先 >

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2 12 13 アジア文化会館内

Tel: 03 - 3946-7565 FAX: 03 3946 7599

E MAIL: iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp URL: <http://www.iloveasiafund.com>

